

道岳連だより

広報 No.85
平成31年1月5日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

平成31年 年頭の挨拶

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫



北海道山岳連盟会員の皆さん新年あけましておめでとうございます。
とし、平成最後で新元号の年となりますが、皆さんいかがお迎えですか。

昨年、北海道では過去に経験したことの無いほどの自然災害による打撃を被りました。台風に伴う豪雨、強風や河川の氾濫、決壊、土砂崩れなどによる尊い人命、家屋、田畑などの被害が大きく、道岳連会員の中にも被害にあわれた方もいたと聞いております。心からお見舞い申し上げます。

9月6日の胆振東部地震、ブラックアウトという、全国的にも初めての事態と後から知りました。私は知人を、札幌駅へ迎えに行くことがあり、信号機の点滅しない中、交差点では前後左右の状況判断をしながら、必死に走行したことを、今でも思い出すと冷や汗が出ます。

近年、自然環境破壊が問題になり、自然保護の運動も高まっていますが、自然をフィールドにする登山者を含め、人間社会がしてきたことへのしっぺ返しなのではないでしょうか。「山の日」が国民の祝日として3年、山の神への感謝と畏敬の念が薄れているという私達への警告サインかも知れません。

道岳連の年間行事、企画についても中止、大幅変更という事態も、例年より多くありました。安全登山シンポジウム、第31回全道交流登山会、アウトドアフェスティバルなどはほぼ予定通りでしたが、特に、交流登山会を主管の恵庭山岳会、千歳山岳会さんに感謝申し上げますとともに、来年度の計画立案に資したい。

高齢化、少子化による登山人口の減少が、山岳界に危機感をもたらしたのですが、「オリンピック」「山の日」などの登山を取り巻く状況や、登山のカテゴリーにトレイルランニングをはじめ、さまざまなアウトドアスポーツが加わったなど、環境の変化により登山人口は増加傾向に転じています。とはいえ、道内で70年80年の歴史ある山岳会が解散、活動停止になっている会もあります。歴史、伝統、地域、年齢構成、各山岳会や会員の問題や悩みは、千差万別ですが、こんな時こそ全道各地の山仲間との情報交換から、解決する糸口を見つけようではありませんか。

個人会員制度は、多くの都府県で採用し幅広い活動実態が見られますが、北海道では道岳連行事への参加も積極的、個人会員同士の交流連携も良好で、登山活動は高まっていると思

います。個人会員は現在 35 名を数えています。

今年3月、海外登山活動を普及させる意図をもって、平成30年度には予定しなかったのですが、海外登山を実施することにしました。下山海外委員長以下16名、9日間のトレーニングです。高所研修、富士山に参加した人も多く、海外登山を楽しみにしています。

来年は2020TOKYO本番、種目採用となり日本山岳・スポーツクライミング協会も、事務所移転とオリンピック関連業務が大変なようです。我々としても、道産子クライマーが活躍できることを大いに期待し、声援を送りたい。

終わりになりますが、今年も、北海道山岳連盟の活動に加盟団体のご支援、ご協力を賜らんことをお願いし、年頭の挨拶といたします。 2019. 1. 1

2018 山の日記念事業

本年で「山の日」が制定され3年目を迎えることとなり、全国各地で記念事業が実施されている。道岳連もこの日を記念して、一般の方々の山登りへの関心を高めるべく、加盟団体へ募集登山、市民登山等の取組みを呼びかけている。

今年は天候が安定せず、台風や豪雨などの自然災害も頻発し、登山道や登山口に至る林道の通行止めなどにより、計画を中止した山岳会も見られたが、以下の14団体から実施報告があり「それぞれの山々」と題して冊子に纏められた。

1. 羊蹄山(札幌山の会)
2. 斜里岳(クーラカンリ)
3. 笹山&元山(函館マウンテンクラブ)
4. 雄阿寒岳(釧路山岳連盟)
5. 丹鳴山(苫小牧山岳連盟)
6. 西別岳・カムイヌプリ(釧路山岳連盟)
7. 夕張岳(恵庭山岳会)
8. オダッシュ山(札幌山岳連盟)
9. 室蘭岳(室蘭山岳連盟)
10. 塩谷丸山(小樽山岳連盟)
11. 北山(登別嶺友会)
12. 赤岳～黒岳&白水沢～黒岳(苫小牧山岳会)
13. 無意根山(遊悠倶楽部)
14. オロフレ山(登別山岳会)



第73回 国民体育大会(福井国体)山岳競技

第73回国民体育大会の山岳競技は、平成30年10月5日から7日までの3日間、福井県池田町山岳競技特設会場で開催された。

第73回国民体育大会北海道代表選手団

成年男子	監督	石井 昭彦	旭川山岳会
	選手1	國谷 斗馬	登攀道場美唄
	選手2	杉本 怜	マイナビクライマーズ(ふるさと選手)
成年女子	監督	一安 敏文	北海道フリークライミング協会
	選手1	加藤 里佳	酪農学園大学
	選手2	北谷 未紗	株式会社秀岳荘

少年男子	監督	大橋 朗	北海道フリークライミング協会
	選手1	坂本 大河	札幌平岸高等学校 1年
	選手2	竹内 悠真	立命館慶祥高等学校 1年
少年女子	監督	長井 洋子	登攀道場美唄
	選手1	東 さくら	遠軽高等学校 3年
	選手2	福井 ころこ	七飯町立大中山中学校 3年
	トレーナー	本堂 雄大	北海道フリークライミング協会

競技結果

成年男子	リード	5位(入賞)	ボルダリング	10位
成年女子	リード	17位	ボルダリング	13位
少年男子	リード	17位	ボルダリング	3位(入賞)
少年女子	リード	18位	ボルダリング	17位

国体報告(石井監督)

国体の山岳競技は、リードクライミングとボルダリングの二種目を二人一チームで競います。

成年男子は、ワールドカップ等で活躍している杉本選手と北海道に在住していますが、全国でルートセッターの仕事等で活躍している國谷選手の二人。ボルダリング競技では、ミスが重なり予選敗退でしたが、リード競技では決勝進出し、5位入賞で終わりました。

少年男子は、国内の大会で好成績を残している坂本選手と、

その次を追う竹内選手がチームを組み、リード競技では予選敗退しましたが、ボルダリング競技では決勝進出し、北海道初の3位入賞を果たしました。女子は、成年が国体未経験の加藤選手と昨年度まで遠軽高校で女子を牽引した北谷選手のチーム、少年女子は国体初参戦となる遠軽高校の東選手、亀田郡七飯町の福井選手のチーム、両チームとも全国レベルの壁が厚く予選敗退となりました。



福井国体山岳競技 北海道選手団

北海道トレイルランニング大会 2018

北海道アウトドアフェスティバル2018inルスツは、9月23日(日)に貫気別岳周辺で開催した。

大会経過(大会事務局)

本年度は記念の第10回大会です。昨年度は「全道一キツイ大会」と銘打って開催しましたが、参加者は250余名に止まり、50マイル(80km)は完走者3名という結果になりました。本年度は50マイルを休止して5つのカテゴリー(60km、30km、15km、5km、キッズ)での開催とし、参加者も400名を越えることができました。

60kmのスタートは3時30分、真っ暗なかヘッドランプを装着してのスタートです。ルスツリ

ゾートから直登気味に橿追山まで一気に登ります。そこからアスファルト道路まで下り、尻別岳の裾を走り尻別岳を登頂したあと下り、国道を横断して向いの貫気別岳を目指します。

従来から不評だった沢沿いのコースは、留寿都村の許可をいただき大きく変更し改善しました。天候は落ち着いており、トレイルランニング日和ともいえる比較的よいコンディションの大会でした。ゴール後体調不良を訴えた1名は、係員の適切な処置で救急車を呼びましたが、搬送することなく回復しました。また、スタート間もなく躓いて左足を負傷した1名は、厚生病院へ搬送し手当をしました。大きな事故もなく大会を終了することができました。

大会の成績は、道岳連HPの北海道アウトドアフェスティバル、トレイルランニング公式ページを参照してください。



行事・各種事業報告

第2回理事会 10/14 札幌エルプラザ中会議室

平成30年度北海道山岳連盟第2回理事会は、札幌エルプラザで48名(委任状23)の理事が出席して開催された。議件として1号議案 平成30年度前期を振り返って2号議案 平成30年度前期事業報告について3号議案 平成30年度後期事業予定について4号議案 備品報告書5号議案 各種議題6号議案 その他 が提案された

小野会長は開会挨拶で、日本山岳・スポーツクライミング協会の運営状況は、昨年来激変しており、スポーツクライミングが東京オリンピックの競技種目になったことで業務多忙。予算総額も1億円から5億円になった。組織の改編も進み現在の9ブロックを6ブロック体制への転換を検討中で、北海道は東北・北海道ブロックになること等を述べた。

明田理事長は、平成30年度の前期を振り返り、安全登山シンポジウム、全道交流登山会などの主な事業は予定通り実施できた。今後の事業についてもHP、リーフレットなど更なる活用を願いたい。各専門委員会の事業内容、加盟団体との接点についても引き続き検討を加えると総括。平成31年度の「安全登山指導者研修会」の北海道開催の要請、山岳指導員資格の名称変更とスタートコーチの位置づけについて触れた。

議案審議では、2号議案、3号議案は、各専門委員会委員長からそれぞれ事業の内容や参加人員の報告及び後期事業が説明された。5号議案は、1.トレイルランニング大会 2.安全登山シンポジウム 3.全日本登山大会京都大会 4.研修所納め案内 5.国民体育大会福井大会速報 6.全道交流登山会

恵庭千歳大会 7.平成31年度安全登山指導者研修会東部地区開催 8.山の日記念登山第3回報告について担当者が説明した。6号議案では、理事会の開始時間を遠隔地からの出席者に配慮し、午後としてはどうか。各専門委員会の事業・会計報告を要約化することなどの質疑が出された。15時閉会。

日高登山研修所納会 11/3-4 日高登山研修所

今年の日高研修所納会は、加盟団体会員58人(うち個人会員9名)が参加して開催した。専門委員会の会議は受付前に実施、例年通り受付後に内外の大掃除、冬囲いを行い、16:00からは滝澤大徳氏による「最新シートと搬送」の全体実技講習を行い、その後、夕食(準備は登別山岳会)と懇親会を行った。二日目、ヌモトル山(612m)登山、スポーツクライミング、シェルター構築に分かれて安全登山研修を行い解散した。



開会式



シート搬送全体研修



ヤブ山「ヌモトル山」登山

全体研修講師 滝澤 大徳
スポーツクライミング講師
石井 昭彦・為野 宜己
シェルター構築講師 滝澤 大徳・加藤 陽子
登山リーダー 明田 通世・石川 孝一
下山シゲ子・澤田 時人

高所登山講習会 8/23-26 富士山

本年も富士山山頂に泊まり高山病を体験する、高所登山講習会が去る8月23日～26日の日程で行われました。

海外登山委員会も委員長を下山副会長が兼任する体制で再スタートしました。新委員長として今までの行事をみたいと言うことで下山委員長も参加し、一般参加者4名、道岳連個人会員1名、道岳連傘下の山岳会所属が3名の合計10名で行われました。

23日は天気も良く幸先の良いスタートと思われましたが、アクシデントでフライトが1時間遅くなり、先が思いやられましたが、この日は移動のみなので何とかかなりました。雨の羽田から移動し、

世界遺産富士山の構成資産の須山浅間神社をお参りし、車で富士山1合目の水ヶ塚公園へ行き、宿へ向かいました。

折からの台風で雨は強くなるばかりで、翌24日も1合目から登るべく水ヶ塚公園に行くも風がひどく、シャトルバスも運休です。15時に再開との張り紙があり、天気も悪いので再開後バスで5合目まで行き、ここから登り始める作戦で一旦下界に降り、富士宮焼きそばを食べ、富士浅間神社の総本社富士山本宮浅間大社へお参りし、午後再び戻るも風雨は強まるばかり、あちらこちらの道も通行止めのため、急きょ小山町に宿を取り落ち着くことに。

25日は朝6時からシャトルバス再開となるので、それに合せて出発。台風は去り、天気は上々、昼にかけて風も弱まってきて絶好の登山日和。他の登山者も我先にと登山開始。我々も5合目でしばし体を慣らし7時過ぎに登山開始。徐々に高度を上げながら14時20分頃剣ヶ峰登頂。順番待ちで何とか集合写真を撮り、最高地点を踏み、登頂を喜び合いました。高山病気味や疲労度の高い人を下山副会長にお願いし、先に宿の方まで下山してもらい、元気な人はお鉢周りを1時間半もかからず一周し、再度集合。北アルプスの一部が見えましたが、残念ながらあとは雲の下。

16時の入館後、高山病気味の人を元気づけながらも、外に出て影富士を見、思い思いに楽しみました。一日中5合目からは雲の中でしたが、時々駿河湾や天城山などが顔を出します。

26日はきれいなお来光を見ることができ、あの台風がうそのようです。剣ヶ峰も朝日に焼け、皆さん大喜び。5時半前には下山開始。登りは富士宮口ですが、下山は御殿場口です。砂走もまだしけており、そんなに砂埃が起きず快適に下山。7時20分宝永山登頂。宝永火口を通り富士宮6合目を経て8時50分富士宮口5合目到着。シャトルバスで車に戻り、入浴や昼食、荷物整理などをして羽田空港へ向かい、新千歳空港、女満別空港、釧路空港へと帰路につきました。



宝永山と火口

今年前半の天気が悪く、1合目から5合目まで歩けませんでした。もう一つの富士山山頂に泊まることができ、夕方から頭痛や食欲不振、登る途中から頭痛や吐き気を発症と様々な高度で高山病を発症することを経験でき、皆さんも非常にためになったかと思えます。この経験を富士山より高いところへのステップとして頑張ろう、と皆さんで盛り上がり、今後の道岳連の発展を支えてくれるようです。

(報告 工藤 寛)

参加者の感想 札幌市 横田 範泰さん (個人会員)

今回のガイドお疲れ様でした。また、いろいろと北海道の山岳事情などを教えて頂き大変参考になりました。富士山登山に関しては、ご来光はもちろん影富士まで観られたことは幸運でした。出来れば1合目から挑戦したかったのですが、楽しみは次回にします。

印象に残ったのは、登山者の多さと山小屋のホスピタリティの劣悪さでした。個人的には入山規制をして自治体がまともな山小屋(宿泊施設)を完備することを望みます。



最高地点 剣ヶ峰

斜里山岳会 笠井 憲子さん

日本一高い富士山に登ってきました。

台風 20 号の影響で暴風雨、富士山に行けるのかドキドキしながら準備した 1 日目。須山浅間神社にお参りもしっかりしました。2 日目も暴風雨のため 1 合目からの登山は断念。水ヶ塚駐車場へ向かいシャトルバスで 5 合目まで行くことになりました。しかし、富士スバルラインは通行止めのためバスは運休。富士山に入山できません。なので、富士宮焼きそばを食べて。富士山本宮浅間大社にお参りしました。富士山に行けますように。この日の宿は 6 合目の雲海荘に泊まる予定でしたが、たどり着けず麓の民宿に泊まりました。

3 日目、6 時発のシャトルバスに乗り込み、やっと富士山に入山できました、天気は今までを挽回するように晴れです。ゆっくりゆっくり登り、今回参加した 10 名全員で富士山浅間大社奥宮にお参りし、日本最高峰の剣ヶ峰 3,776m に立つことができました。高山病の症状が出ている方もいましたが、私はこれといった症状もなく、お鉢回りもしました。早歩きすると息が切れ、高所の空気の薄さも実感です。深呼吸は大切です。いつ高山病の症状が出るかと思いつつ、頂上富士館に宿泊。

4 日目、すばらしいご来光を拝み、ありがたいことでした。幸運にも私は高山病にもかからず、宝永山経由で無事下山。10 名全員が無事下山できました。

今回、高所に行ったことがない私が、高所に行ったらどうなるか、楽しみ半分不安半分で参加しました。高所の息苦しさを体験してみてもっと高いところにも行ってみたいと思うようになりました。また、参加者の皆さんと山の話を楽しんだことも勉強になり、刺激にもなっています。これからいろんな山に挑戦しようと思っています。

最後になりましたが、ご一緒しました皆さんと講師の工藤さんありがとうございました。

パワフルレディース登山研修会 9/22-23 北大雪

今年度のパワフルレディース登山研修会は、9 月 22 日～23 日会員 8 名(個人会員 1 名含む)スタッフ 3 名の計 11 名で北大雪「平山～天狗岳縦走」を行った。

当初、愛別岳を計画したが、7 月の大雨で登山口までの道路が決壊、開催日までに修復ができない事がわかり、急遽北大雪の平山～天狗岳縦走に変更。

1 日目は当初から予定していた愛別町の石垣山の三角点と、松浦武四郎・間宮林蔵が宿にしたという大岩窟探索。林道に車を止めて 12 分位で石垣山の頂上に着き、藪に埋まっている三角点を、地形図や GPS で発見する。岩窟はここかなと思われる岩窟を 2ヶ所位見つけて、きっとここだと皆で達成感に浸ったのだが、あとで調べたら間違いだったことがわかり、再度訪れようと個々に胸に誓う結果となった。

白滝高原キャンプ場に移動し、読図とコンパスの学習を行う。夕食・懇親会では、来年度のパワフル山行の話や、女性ならではの喋りに盛り上がり、翌朝早いことも事も 21 時には就寝する。

2 日目 4 時起床。平山登山口へ移動し 6 時過ぎに出発。天気は期待できない予報だったが、登山を開始すると晴れてきて青空となり喜び合う。途中倒木が登山道を塞いでいる箇所が数箇所あり、乗り越えたり潜ったり・・・疲労が重なったが、途中の滝や標高 1500m 位からナナカマドともみじの紅葉が素晴らしく癒やされた。登山道が荒れて



石垣山三角点

いたために、稜線までの登りに予定より時間オーバーとなり、平山の頂上は寄らずに通過する。



天狗岳山頂

稜線歩きは雲で視界が悪かったが、時々雲の切れ間からニセイカウシュッペ山との稜線に聳えるアンギラスのギザギザ尾根も見え、遠望を楽しみながら足を進めて行く。文蔵岳の頂上では雲の中、ホワイトアウトで周囲は全く見えない状態。これから目指す有明山の方向をみんな地図にコンパスを当てて方位を定め、学習した事の復習をする。ここから有明山までは標高差400mのダラダラした長い下り。そして300mの長い登り返し。最低コルでしっかり腹ごしらえをし、あとひと頑張りだと励まし合いながら一步一步足を運ぶ。有明山から天狗岳も更に疲れた身体には厳しい登り返しであった。

天狗岳で集合写真を撮り、後は下るだけと思ったが長い距離を歩いてきた足や膝には厳しく、ゆっくりゆっくりの下山であった。行動時間は約10時間。

今回の縦走は、距離がありアップダウンも厳しいコースだったが、皆さんの協力があり無事終える事ができた。それぞれに思い出に残り充実感あった山行であったと思われる。

スタッフ 加藤 陽子 新井 素子 下山シゲ子

(報告 下山シゲ子)

パワフルレディース登山研修会に参加して ロビニア山岳会 齋藤 美里

登山の経験が浅く、地図の読み方やコンパスの使い方も知らない状態から一歩前進したい気持ちがあり、今回のパワフルレディースの参加を希望しました。北大雪は初めてであり、楽しみな反面、参加する方々についていけるのだろうかという不安や緊張も感じながらの参加でした。

1日目は到着時間が遅れたため、他の方々が石垣山を下山した後に、白滝高原キャンプ場で合流しました。バンガローに到着し荷物を運んだ後は、早速地図読みの講習が始まりました。磁北線の引き方やコンパスを使って進行方向を示す方法、地図を見て尾根・谷・コルなどを読み取る方法などを丁寧に教えていただきました。他の参加者の方々と「ああ、こういうことか！」と声をかけあいながら学ぶことができ、充実した時間でした。

講義の後は用意していただいた鍋やおにぎりなどをいただき、楽しいひと時を過ごしました。参加者の方々の経験談をたくさん聞くことができ、とても勉強になりました。これからもっとたくさん経験を積んで、先輩方のようにレベルアップしていきたいと改めて思いました。

夜に降っていた雨は止み、翌朝は霧がかかっていますが晴れて朝焼けがとても綺麗でした。朝食はアルファ米とお味噌汁をいただき、荷物をまとめ、まず北大雪スキー場に車をデポしたあと、出発地である平山登山口に移動しました。平山の登り途中では、赤や黄色の紅葉の中を流れる滝を眺めることができ、全員で歓声を上げながら写真を撮りました。台風24号の影響で倒木が多く、くぐったりまたいだりしながら一步一步進んで行きました。長い稜線歩きでは、コケモモがたくさん実っており、目を楽しませてくれました。また、ガスが晴れたタイミングで周りの山々やアンギラスを眺めることができ感動。比麻良山、文蔵岳と進んで行き、コルで昼食をとり、再び歩き始め有明山へと進みました。天



平山稜線手前の紅葉

狗岳へ向かうところからは下りと登りがきつくなり、もう一息と自分たちを励ましながらか歩いてきました。天狗岳の山頂では休憩の合間に写真を撮りあったり、集合写真を撮って、山行の思い出を記録しました。小天狗へ歩く途中では、通り雨の後の虹を見ることができ、ごほうびをもらったような嬉しい気持ちになりました。小天狗の山頂ではもうすぐ山行が終わってしまうというちょっと寂しい気持ちが芽生えましたが、ここからスキー場を抜けて下山するまでが思いがけず長い道のりでした。

出発から下山まで10時間以上の行程でしたが、全員で最後までやりきったという達成感でいっぱいになりました。講師や先輩の方々には、休憩をとるタイミングや歩き方などの技術面だけではなく、風景や草花などを楽しむことなどを教えていただき、実り多い時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

自然保護指導員の集い 10/6-7 日高登山研修所

北海道山岳連盟自然保護委員会が主催する「自然保護指導員の集い」を、平成30年10月6日(土)～7日(日)の二日間の日程で日高登山研修所を会場に開催し、自然保護委員会常任委員や日本山岳・SC協会認定自然保護指導員など11名が参加した。

1日目は、増子委員長、小野会長の開会挨拶の後、事例発表Ⅰ「トムラウシ南沼野営指定地汚名返上プロジェクトの取組み」をテーマに、十勝山岳連盟齋藤会長が登山者の排泄物やトイレ道の拡大で、周辺の自然環境の荒廃が進むトムラウシ南沼野営地のトイレ問題について、画像を交えて説明。平成29年4月に環境省、林野庁、北海道の関係機関に十勝山岳連盟、新得山岳会、山のトイレを考える会など官民あげての取組みが始まり、登山者へのアンケート調査、携帯トイレ普及活動、トイレ道復元試行など現場での対応を説明。現実としては、携帯トイレを持参している登山者は多いものの、実際の利用率は低いことや、トイレ道にロープで立入規制してもその横に新たな踏み跡ができる、トイレブースが一基しかなく老朽化がすすんでいるなどの課題も紹介された。

また、平成28年8月の台風で、日勝峠経由の国道が2年間通行止めになり、ペケレベツ岳登山道は整備ができず、2m近い笹で登山道が不明になった箇所が多く見られるようになった。今年の7月上旬に十勝岳連、道岳連会員延べ28人が延長3.4kmの登山道整備を実施した事を報告した。



事例発表Ⅱは「斜里岳での近自然工法による登山道整備」を増子自然保護委員長が発表。平成26年に斜里岳「清岳荘」管理人を継承。地元山岳会や関係機関の山岳整備に対する動きは鈍く、斜里岳新道の下二股から熊見峠間は登山者から「悪路」と評されていた。事態を打開するため地元山岳関係者と協議し、翌年7月「清里山岳会」を引き継ぐ形で「斜里岳友の会」の設立に至った。平成28年から清里町が斜里岳登山道修復のための

作業に対し予算を付け、以降、年に2回整備作業を継続して実施している。整備における技術指導は北海道山岳整備岡崎氏が行い、周辺の石材や倒木を活用する「近自然工法」を取り入れ、今年

熊見峠手前まで到達しており、その施工前と施工後の状況を画像で紹介した。

室内研修の最後は、「自然保護委員会及び自然保護指導員の今後のあり方」を中心に意見交換が行われた。過去5年間の自然保護委員会の事業では、スタッフを含め参加者の確保が難しくなっている現状や、自然保護指導員認定登録者が10年前の半数に減少している事が報告された。・自然保護指導員資格にメリットがない ・おつきあいで登録 ・事業内容が魅力に乏しい ・年度ごとの単発事業でなく特定路線の継続整備などプロジェクト化 ・研修会は道内エリアごとの持ち回りにしてはどうか など活発に意見交換がなされた。

二日目は、整備が終了したペケレバツ岳の調査登山を予定していたが、予報通りの台風直撃で雨脚が強く風も出てきたため中止とし、研修所内清掃後の午前9時に解散となった。

(報告 内藤 美佐雄)

夏山フキ登山会昆布岳 10/13 昆布岳

前回の夏山講習会 Part3 赤岳から白雲岳登山が、去る9月6日に発生した胆振東部地震により中止となりました。この地震で41名の尊い人命が失われ、被災した地域の皆さまにお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りするばかりです。

今回の昆布岳プチ登山会には、札幌からの参加者2名に応援の蘭友登高会1名、山登りは超初心者の地元豊浦にいる息子夫妻とスタッフ3名の総勢8名で、本当にミニ登山会になりました。

当日は7時30分に各自の車で昆布岳駐車場に集合し、開会式、準備体操後、昆布岳を目指して出発する。この登山道は幅広く整備されているので歩きやすく、天気も良くて紅葉にも恵まれ気分は最高！ あっという間に5合目近くのメガネ岩に到着して休憩タイム。ここで横山CLと分かれ、平坦な道を何度か休みながら進むと視界が開けてきて、最後の急斜面を登ると3時間ほどで一等三角点のある昆布岳1045mの頂上に着きました。頂上からは羊蹄山、ニセコ連峰、洞爺湖、噴火湾まで一望できてここまで登った達成感で、それぞれが感動を一杯味わうことができました。展望の良い頂上でゆっくりお弁当を食べ、記念写真を撮ってから下山、2時間半程で無事登山口に到着し、次の再会を誓って解散となりました。参加者の少なかったのは残念でしたが、今後も身近な山登りの経験を重ねることでレベルアップし、次の山行に備えたいと思いました。

行動タイム 登山口発 7:50⇒ メガネ岩 9:10⇒ 昆布岳頂上 10:50-11:20⇒ 登山口着 13:40
スタッフ 横山 温 細木 輝男 横山 泰子 (報告 細木 輝男)



メガネ岩付近



昆布岳山頂

第17回スポーツクライミング北海道選手権大会 兼第9回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会 兼第59回札幌市民体育大会クライミングコンペ 10/28 北海道科学大学体育館

第17回スポーツクライミング北海道選手権大会(第9回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会、第59回札幌市民体育大会クライミングコンペを兼ねる)は、10月28日北海道科学大学で、オープン5名、ジュニア男子15名、ジュニア女子19名、ビギナー4名、キッズ14名が参加して開催された。

《オープン》	《ジュニア男子》	《ジュニア女子》	《ビギナー》
1位 小林 大騎	1位 竹内 悠真	1位 井土 桜花	1位 持田 拓馬
2位 岸本 武蔵	2位 坂本 大河	2位 吉田 ゆな	2位 川村 竜太
3位 古屋 隆弘	3位 丸尾高士朗	3位 上原子音羽	3位 下沢 圭寿
《キッズ》			
1位 工藤 賢悟			
2位 小鍛冶菜花			
3位 岡山 そら			



第9回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会

平成30年12月22日～23日 埼玉県加須市 加須市民体育館

リード競技 予選 (フラッシュ2本) 準決勝・決勝 (オンサイト)

《北海道選手成績》

男子 (エントリー110名)			女子 (エントリー101名)		
坂本 大河	札幌平岸高校1年	24位	上原子 瞳	札幌静修高校1年	31位
竹内 悠真	立命館慶祥高校1年	31位	佐藤いぶき	北海道科学大学高校3年	33位
丸尾高士朗	遠軽高校2年	46位	東 さくら	遠軽高校3年	38位
邊春 直生	遠軽高校2年	71位	吉川 直子	遠軽高校2年	71位

※日本山岳・スポーツクライミング協会HPリザルトより転載

杉本 怜・小武芽生 選手

スポーツライミング第3期JMSCAオリンピック強化選手に決定

日本山岳・スポーツライミング協会は、11月22日付けでスポーツライミング第3期JMSCAオリンピック強化選手を発表し、北海道出身の杉本怜選手(北海道山岳連盟)、小武芽生選手(エスエスケイフーズ)が強化選手に決定された。世界選手権2018、アジア競技大会2018、アジア選手権2018を基準とする複合種目の結果実績により、特典別にS、A、Bに男子は9名、女子は6名ランク付けされ、杉本選手はAランク(アジア選手権2位)、小武選手もAランク(世界選手権8位)に格付けされている。

強化選手は、東京2020年オリンピック競技大会でメダルを獲得するために(公社)日本山岳スポーツライミング協会が最優先で強化する選手で、2018年11月15日から始動する。
(日本山岳・スポーツライミング協会HPより抜粋)

冬期遭難対策研修会 12/8-9 十勝岳

平成30年12月8日(土)～9日(日)の両日全道的に大雪でしたが、大雪青少年交流の家において、一般愛好者を含め18名が集合し、研修が行われました。一日目は14時から室内で、最新ビーコンの特性や使い方の研修の後、屋外においてビーコン捜索とプローブの操作の訓練を実施。デジタルとアナログの混合により埋没者数のダブりの現象が現れるなど実証され、捜索に支障が出る場合がある。3時半からは室内に戻り、雪崩遭難の実態や救助方法、救助後の低体温を防ぎながらの搬送方法などを研修しました。夕食後は、受講生の和やかな交流とロープワーク3点支持の引き上げ勉強会を行いました。

2日目は、9時より望岳台にて、2班に分かれ雪崩埋没の実習を行い、30～50cmの積雪下では、身体が奪われ埋没者から外の声は聞こえても、捜索者に声は届きにくい状況を体験。

更にビーコンとゾンデ棒で身体の向きなど実際に軽く付いて感触を確かめ、気道を先に確保する掘り起こしを実践。搬送ではツェルト等で保温、加温を行いながら、シートを使った搬送を演習しました。最後に引き上げのため、スノーバーやゼットマンの他、土嚢を使ったアンカーの取り方、スノーバーにスキーシールを貼り付け、抜けの抵抗を強化したものなどが紹介されました。

講師 齋藤 邦明 仲井 信夫 為野 宜己 向川 司郎 潮田 満 (報告 齋藤 邦明)



シート搬送演習



望岳台防災シェルターでの参加者集合写真

今後の諸行事

氷壁技術講習会 (指導委員会・海外登山委員会)

平成31年1月26日(土)～27日(日) 層雲峡温泉ペンション銀河・銀河の滝周辺

冬山講習会 Part 1 (基本編) (普及委員会)

平成31年2月2日(土)～3日(日) 五色温泉旅館別館・イワオヌプリ・チセヌプリ

日本ユース選手権リード競技大会 2019 代表選考会 (競技委員会)

平成31年2月3日(日) 美唄市体育センター

山岳スキー(氷雪)技術研修会 (指導委員会)

平成31年2月9日(土)～10日(日) 国立日高青少年自然の家・日勝峠～ペケレベツ岳

日山協スポーツクライミング部ブロック別研修会 (JMSCA)

平成31年2月24日(日) 札幌エルプラザ

冬山講習会 Part 2 (応用編) (普及委員会)

平成31年3月16日(土)～17日(日) 国立日高青少年自然の家 日勝ピーク・熊見山

プチ冬山講習会 日帰り講習会 (普及委員会)

平成31年3月31日(日) オロフレ山(スノーシュー登山)

第3回理事会

平成31年4月14日(日) 札幌市(会場未定)

★ 詳細は道岳連HP又は加盟団体配布の要項を確認ください。

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.85 平成31年1月5日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄